

# 風が彩る 心の服

長倉伯博



## 目次

有髪

..... 2



旅情

..... 5



檀那

..... 8

離言

..... 23

花見

..... 11



響流

..... 26

無常

..... 14

微笑

..... 29



題字  
白石光祐



# 有髪

私は有髪うはつの僧侶である。

「お坊さんなのに、どうして髪の毛を伸ばしてるの?」  
と、子どもたちに問われることもある。

「君たちは制服を着てなくても小学生でしょう。恰好じゃなくて、大事なのは中身なんだよ」

と丸めこもつとするが、テレビやマンガに登場するお坊さんは、全員丸坊主と相場が決まっているから、「変なの」と言われるのが落ちである。

私が中学生の頃、入学時に男子生徒は全員丸刈りが義務づけられていた。それが嫌で、一年生の一学期の間は長髪でがんばった。お寺の息子だろう、と多少の皮肉はあったが、担任の先生だけは気長に待ってくれた。しかし、ついに最後の一人になって、泣く泣く丸めた。

もちろん「効能」は理解している。猛暑の日、水道の水を蛇口から直接頭にぶっかけると気持ちいいし、乾きも早い。でも、決めつけられるのは嫌だった。

その後、高校も入学時は坊主頭と決められていたが、在学中に自由化された。当時、長髪問題と騒がれたが、今の学生たちはそんな時代があったことさえ知らないだろう。

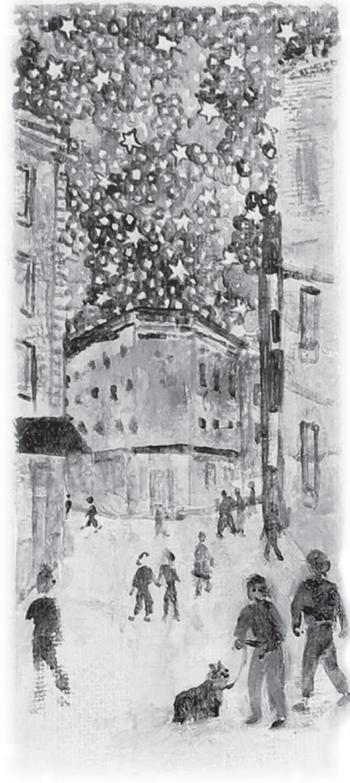
ところで、なぜ僧侶が剃髪ていはつするかというと、「落飾らくしやく」ということばの通り、世俗の価値観を捨て棄欲を生きる決意を示すものなのである。だが、坊主頭やスキンヘッドというと、昨今では逆に生臭く感じる向きもある。見かけは同じなのに、困ってしまう。

私は、週に二回ほど医療チームの一員として、患者さんのベッドサイドに伺っている。医療者ではなく、宗教家として患者さんやそのご家族の悩みを聞くという役割である。

この場合は、今のところ有髪で洋服が良いようだ。病院で僧侶の姿を見かけると、一様にドキッとされる。だけど、神父さんや牧師さんはさほど嫌がられないようだから、少し悲しい。

剃髪の僧は、すっきりしている。有髪の僧は気楽だが、人混みに紛れてしまう。皆さんの隣に座る人は、僧侶かもしれない。でも、それほど危険ではない。

あぶなっかしいのは、揺れる私の生き方だろう。



## 旅情

先日、久しぶりに広島まで線路の旅をした。

仕事柄、ご本山のある京都まで出かける機会が多いが、だいたいが慌ただしい日程で、飛行機を使うことになってしまう。空の旅は、点と点をヒヨイと飛んでいるようなもので、なかなか旅の気分には浸れない。

これに比べると、車窓の風景を眺めながらの移動は、人生を感じさせてくれる。瀬戸内の工場群を眺めていたら、学生時代がよみがえってきた。

当時、東京―鹿児島間は、普通急行「桜島」で二十六時間かかった。乗車券が学割料金で四千円。貧乏学生だったせいか、金額まで不思議に思い出すことができる。盆暮れは帰省客で超満員、夜になると荷物を枕に通路で寝たものだ。